

活躍している同窓生

日本一のさしま茶

飯田園代表 飯田 耕平 (高55)



境高校を卒業してから14年が経ちました。在学当時は大

学に進学しようか迷っていましたが、卒業後は静岡県島田市にある野菜茶業研究所に入所をし、2年間の茶業研修を行いました。修了後は製茶問屋と製茶機械メーカーでお仕事をさせていただき5年の月日を静岡で過ごしました。2008年に実家である飯田園に就農し、地元特産の「さしま茶」を栽培・製造・販売している8代続のお茶農家になりました。さしま茶は日本茶で初めて海外に輸出をされたお茶です。1859年、ペリが来航したころにさしま茶は生糸などと共に主にアメリカ西海岸に輸出をされていたという歴史ある茶産地です。就農してからはさしま茶を

知ってもらうために子供から大人まで幅広い年代・海外の方を対象に茶園見学・茶工場見学・お茶摘み体験・お茶作り体験・お茶の美味しい淹れ方教室を実施し、淹れ方だけでなくお茶の効能や機能性もあわせて紹介しています。

この他の活動としては全国手揉み製茶競技会へ出場、全国茶品評会への出品、茶審査技術競技会へ出場をしています。手揉み茶競技大会では2011年、2015年に最優秀賞・昨年2016年は優秀賞を受賞させていただきました。各大会に出場することでさしま茶の産地としてのPRと個人の技術の向上を目指しています。

G7つくば科学技術大臣会合で手揉み茶の実演をしながら実際に手揉み茶を飲んでいただき、そのことがマスコミでも取り上げられました。さしま茶の魅力、茨



城の魅力の発信の一助となれたかなと思っています。

そうは言っても、まだまだ努力が足りないと感じていますので、継続的に手揉み茶の実演会や体験会、お茶淹れ教室を開催していこうと思えます。現在ではお茶の効能が注目を集めていますが、一杯のお茶で会話がうまれ、職場や家族が団欒となり目に見えない心の豊かさを育みます。お茶の美味しい淹れ方や楽しみ方を学ぶことは、日本茶文化の理解の助けとなり、将来的に社会全体が日本茶文化を継承していくことにも繋がると思います。

私が住んでいる境町のような茶産地においては茶園見学や茶摘み体験、お茶作り体験を通して都市部からの観光客の増加が見込め、農業と地域の発展に貢献できると信じています。

活躍している同窓生

ユネスコ国際展一席受賞

画家 栗原 勇男 (高12)



画家 栗原勇男氏を紹介する。同氏は、茨城県常総市在住の画家で境高12年生。元々は電子エンジニア。武蔵野美術大学油絵科やアメリカ美術学校で絵画を学ぶ。画業の傍ら、小説の執筆、古文書の復刻、縄文の毛織物・古代蒲わた布団の試作などいろいろ挑戦している。

ユネスコ国際展は隔年に催され、今回のテーマは「身体心と魂、癒しのギフト」であった。入賞作品のタイトルは「赤ちゃんは最大の癒しのギフト」。ちやうど絵のモデルをしてもらっている女性の姉に子供が生まれ、その祖母が車椅子からベッドに移されるのを見てイメージがわいたとのこと。かけがえのない命の輝きと魂、家族の絆など不変の人間愛を表現したものの。一席は、最高賞である。



「赤ちゃんは最大の癒しのギフト」

多士
済々

「利根川と虫と私」

元東京農業大学農学部助教 農学博士
日本ビオトープ協会顧問

立川周二(高12)

私がこれまでたどつて来た道は、いってシンプルです。1960年に境高校を卒業すると、東京・世田谷の東京農業大学に入学しました。大学を選んだ動機は、昆虫学を勉強したかったからです。次男坊の気軽さで、将来の就職などは気にしませんでした。幼い頃から虫好きで通っていましたので、周囲からも当然視されていたようです。入学前から目指していた昆虫学研究室にも、何の曲折もなく所属することができました。

研究室には、全国から虫好きが20名ほど集まっていました。他の研究室では学生が数10名いるのが当たり前でしたから、小さな所帯の研究室でした。上京したばかりは、周囲が卓越した人ばかりに見えて、ずいぶんと落ち込んだものです。しかし、何事にも昆虫ファーストで押し通し、授業には可能な限り出席することなく、朝から晩まで虫を相手に、研究室で過ごしました。

学生時代をぶれることなく、虫一途に過ごすことができたのは、これまで境町でしていたことに、誤りがなかったからです。昆虫を採集し、標本をつくり、箱に並べます。一方で、関係資料を集め、標本と文献を照合しながら、種名を調べて分類整理します。単純な作業のようですが、コレクションが増

えていく喜びと、知見の蓄積が面白く、飽くことがありませんでした。この作業は、中学・高校と続けてきたことであり、大学に来て改める必要は、全くありませんでした。つまり大学に入り、打ち当たる壁などはなく、同じ道を歩むことで、さらに面白味が増したのです。

昆虫類は種類が多く、個人の力で全てを調べることは不可能です。研究者は、それぞれ得意な対象グループを決めます。私は、臭い虫として嫌がられるカメムシ類に魅了されて、研究対象としました。幸いなことに、農水省の研究所に勤務する、カメムシの専門家から直接指導を受けることになり、飛躍的に力をつけることができました。この先生からは、研究の世界から酒の

飲み方まで、森羅万象ごとくお教えを賜ったと思っています。

学問の世界はエンドレスで、これで十分と言うことはありません。4年間の学生生活はあつという間に過ぎましたが、将来に不安を感じることはありませんでした。卒業後も、これまでと同様に、研究室通いを続けました。女子高の講師を務める傍ら、大学で無給の副手として籍を置いていました。一年が過ぎて、助手として正式に大学職員として採用され、さらに研究者の道歩むことになりました。そして65歳で定年退職するまで、好き勝手をさせて戴きました。平坦な道のりのようですが、単にレール上を歩んだだけでなく、エポックとなる出来事がいくつもありませんでした。人並みに、山と谷があつたことは言うまでもありません。

私にとつて、原点は利根川です。生まれは境町船戸町と言え、水運盛んな境河岸の中心として、大変賑わつたところでした。境町の往還道が利根川の堤へ至ると、築かれた閘門を通つて、直接河へ出入りができました。馬車や牛車を積まれた荷が、河岸へと運ばれる光景を記憶しています。江戸から東京となり、しだいに水運は廃れ河岸も寂れて、閘門も消えました。私の生家は、閘門の地点から100mほどの所にあり、数分歩くと利根川の土手に立っていました。ご承知の通り、境町は利根川の中流域で、関東平野の真つただ中にあります。土手からの眺望は、広大な平野の先に、日光連山と筑波山がそ



宮城県登米市で子供たちのため昆虫教室を開く

びえますが、間近には人家と田畑に、僅かな平地林が望めるだけです。この変化に乏しい地形の中で、自然環境といえ、利根川の河川敷が最もふさわしかったのです。今では、川原にヤナギの灌木が見られますが、往時には、水辺はヨシやマコモが茂り、泥土でなく砂地が広がっていました。水際、砂原、草地、堤と、それぞれに特有な生き物がすみ、生命にあふれていました。もちろん、水中には様々な魚が見られました。少年時代の自分は、利根川に通い、それらを眺め、捕え、遊ぶ、そんな毎日過ごしました。歳を重ねましたが、利根川の景観と生きものは、なにも変わることもなく、あの頃のままだ心の中で息づいています。そして、このようなわがままな私を受け入れ育んでくれた、故郷の自然と友人たちに、心より感謝しています。



インドネシアの昆虫調査(2004年)

思い出

「進学適性検査」県で一番に

大里和雄(高2)



私は昭和19年4月旧制の境中学校に入学致しました。当時は2クラ

ス合わせて男子のみ100名でした。受験生は270名位だと記憶しております。戦時下でしたので毎日2時間の軍事教練があり、勤労奉仕などもあり勉学の時間は削られておりました。

英語は敵国語として東京などでは教えておりませんでした。私達は勉強していません。東京から疎開で転校してきた生徒達は、急遽英語の勉強をしなくてはならず大変でした。翌20年8月家で終戦の玉音放送を拝聴し、目標を失い一時呆然とした事を覚えておりません。

戦後は英語の勉強が盛んになり、特に英会話学校が各地に出来ました。NHKでも夕刻から平川唯一先生による英会話講座(カムカムクラブ)が始まり、全国各地に支部が誕生し、境高校にも出来ました。東京の中央大学講堂で全国大会が開催され、私と高野君二人も

参加しました。休憩時間に講師のアメリカ人と会話をしたのは境の二人だけでした。周りには大学生や各地のクラブ会員が見守っていました。私も実際に外人と話をしたのはこの時が初めてで、少しドキドキしましたが、英語が通じてほっとしました。

私達は戦前、戦中、戦後と4年間ずつ学んだ珍しい学生です。入学は旧制中学なので5年間ですが、途中昭和22年に学制改革があり、所謂633制になり、男女共学となりました。1年余計に勉強すれば、新制高校の卒業資格が取れると言うことで、卒業は二組に別れました。即ち昭和24年3月の旧制中学第18回生と25年3月の新制高校第2回生は、入学は一緒に同期生です。

戦後は校内にも各種クラブが生まれ、私は英語、化学、音楽、テニスと各部に所属して、勉強に運動に楽しく過ごしました。

テニス部の思い出としては、現在の立派なコートと違い、当時は校庭の片隅に白線が引かれ、先ず一番の仕事は重いコンクリートの

ローラーを曳いて、コートを平らに均す事です。然し球がイレギュラーバウンドして困りました。又周りにネットはなく、球拾いに悩まされました。練習時間の半分はローラー曳きと球拾いに充てられました。

音楽部では物理の佐野先生がギターを弾き、私がマンドリンを弾き、その他ヴァイオリン、アコーディオン、ハーモニカ、ドラム、女性歌手など総勢10名位で活躍しました。その当時町には(寿座)と言う映画館があり、そこで境高ミュージックバンドとして演奏した事がありました。夜には町のダンスホールで演奏したこともあり、これは佐野先生には内緒でした。

特筆したい事は、昭和24年に旺文社主催で県下一斉に行われた大進学適性検査、このテストは大進学適性検査の対象にしたもので、境高が水戸一高を抜いて一番に成った事です。そのときは県下の高校の先生が授業参観に来ました。これはその後の進学状況に実力として現れました。東大医学部を始め東工大、一橋大、東北大、早稲田に合格し、更に茨大、宇大、慈恵医大、中大、青学、明大、芸芸大などに合格者を出しました。同級生には医者の方が4人おりました。

先生方も優秀な人材が揃っていました。張替勇先生は県教育委員



S23 境高カムカムクラブ

参事を経て水戸一高の校長に、田中義雄先生は土浦一高の校長に、先代の中村喜四郎先生は県議会議員を経て参議院議員となり国家に貢献しました。

振り返ってみますと、戦中戦後の物資のない時代に学生として過ごし、毎日腹を空かしながら勉強に運動に耐えてきたと思います。今となつては、苦しかった思い出も、楽しかった思い出も、人生の糧となり現在に至っています。今後とも伝統ある境高校の更なる発展を祈念しております。

蛍雪会への協賛金と

会報発行費についてのお願い 蛍雪会役員一同

〇活躍する生徒たち

蛍雪会も現体制になって、3期目を迎えます。会員の皆様のご協力によって、毎年の通常の運営も

順調に経過し、特に総会は、毎回、総勢百数十名の参加を得て盛大な会合となっていることは、誇りとすべき当会の伝統となっています。通常の活動については、4頁に事業報告として記載しましたが、いくつか特に気が付いたことは、

先ず、奨学生の選考において、推薦されてくる生徒の成績が素晴らしいこと、今回も3名を選考しましたが、皆、すべての教科で最高の評価を得ている生徒です。また、クラブ活動の結果については、6〜7頁にあり、優れた結果の種目は青文字で表記してありますが、特に科学部の「境町における洪水予測図」の受賞が目立ちます。私た

ては、6〜7頁にあり、優れた結果の種目は青文字で表記してありますが、特に科学部の「境町における洪水予測図」の受賞が目立ちます。私た

成果受け継ぎ 進化させる

「二から何かを考え出す」だけが、頭の良さじゃない。茨城県立境高校2年の田中未来さん(17)は、同県八千代町出身。こう考える。水害が相次ぐなか、避難に役立つ洪水予測図の制作に科学部の部活動で取り組み、実感したという。

学校がある境町には利根川が流れています。町には利根川の洪水の範囲を予測したハザードマップはありますが、部の先輩は、支流を含めたより細かいマップを作ると、町の地形を調べてマップを作りました。町の南側に低地が多いことは先輩たちの調査で分かっていたので、私たちの代では予測図を

バリエーションアップし、特に冠水しやすいような低地の洪水予測を、重点的にまとめたマップを完成させました。

頭の良さって、分からないけど、一から作るだけじゃなくて誰かの成果を受け継ぎ、改良して進化させていくことも表れると思います。

私たちのマップは町に提出し、夏に東京で開かれた10代のプレゼンコンテスト「THINKERS Fests 2016」のリサーチ部門で優勝しました。測量は手作業でしんどかったけれど、達成感があります。防災対策に役立ててほしいと思います。(聞き手・前田育穂)

田中未来さん

朝日新聞教育面(全国版) 科学部2年生部員・田中未来さん

ちも、指導の先生とともに科学部の生徒たちが、測量計を携えて街中を測量する姿を、度々目にしました。それが、そうした地道な努力の結果が、受賞につながったものと思われま。これに関わった2年生の女子生徒は、朝日新聞全国版教育面の「eco」という欄に取り上げられその意見が紹介されています。(H28・11・5・左図・切り抜き紙面)。

また、境高校の生徒たちについて触れますと、全体的にとってもきちんとしていて、このように授業のしやすい学校は珍しいというのが、定まった評価です。入学式や卒業式などの整然とした様子は、とてもすがすがしく感動的ともい

えるくらいです。

〇バックアップを!

私たち同窓生としては、このような母校を更に魅力あるものとするために、出来るだけバックアップしたいものと思います。

とりあえず、奨学金を念頭に置いた「協賛金」としての募金をお願いしたいと思いますが、奨学金制度の意義を理解の上、境高校OBの底力の見せ所として、出来るだけたくさん額を、そして、出来るだけ継続して協力いただければありがたいと思います。協賛者のお名前は、次号にて記載させていただきます。

次に、蛍雪会報についてですが、27年度に創刊号を5200部発行し協賛金をお願いしたところ、780名の方から250余万円のご協力をいただきました。28年度の第2号は、全会員16000余人に発送し、一人1000円の協賛をお願いしましたが、協力者は1379名にとどまり、第3号の発行の費用が厳しい状況になっております。下表の収支報告を参照下さい。(1000円以下の端数は切り捨て。)

同窓会報賛助金収支報告

創刊号		
収入	2,532,000	781名
支出	186,000	印刷
	578,000	封入・発送
支出計	764,000	
残高	1,768,000	

第2号		
収入	1,526,000	1,379名
	1,768,000	前回残高
収入計	3,294,000	
支出	548,000	印刷
	1,773,000	封入・発送
	25,000	雑費
支出計	2,346,000	
残高	948,000	

いしたいと思いますが、多くの方のご協力をお願いします。なお、この件に関するお問い合わせは同窓会会長若しくは校外幹事長までお願いします。

賛助金協力者芳名

3月31日現在 (一)内旧姓

10000円と限定したにもかかわらず、多額をお送りくださった方もいらっしゃいました。

創刊号追加分

10000円 小島 敏彦 高8

5000円

高橋 淳 中18

10000円

安井 義博 高22 安井 初枝 高20

10000円

古谷 新六 高8 杉村 光一 高12

10000円

若旅 正孝 中18 川又 継男 (赤沢)

10000円

田統 久雄 高8 田統 久雄 高4

10000円

山中 勇 高10 皆川 浩也 高18

6000円

石川 光良 高6 白砂 秀男 高12

5000円

鈴木 寛 中16 高崎 淳 中18

3000円

峰 宏嗣 高3 野村 きみ (初見)

3000円

菅野美紗子 (石崎)

3000円

田中 和枝 (石崎)

3000円

初見登美夫 (初見)

3000円

石川 明 高21 初見一雄 高17

3000円

峰 暢宏 高36 藤本 顯喜 高38

2000円

片倉 純孝 高6 頓宮 逸子 (齊藤)

10000円

荒川 三郎 旧職員 飯泉 誠 旧職員

10000円

市川 昌利 旧職員 市川 英樹 旧職員

10000円

草間 勲 (遠藤)

10000円

金田 利雄 旧職員 金子 瑞男 旧職員

10000円

北島 剛 旧職員 北島 瑞男 旧職員

10000円

串間 剛 旧職員 串間 正市 旧職員

10000円

倉持 幸一 旧職員 倉持 和史 旧職員

10000円

若瀬 正市 旧職員 若瀬 幸一 旧職員

10000円

坂場 庸克 旧職員 坂場 俊子 (桜井)

10000円

佐藤 時和 旧職員 佐藤 剛 旧職員

10000円

杉山 通雄 旧職員 杉山 修 旧職員

10000円

徳永 真澄 旧職員 徳永 真澄 旧職員

10000円

田染 寿久 旧職員 田染 啓子 旧職員

10000円

鈴木 恵美子 旧職員 鈴木 博 旧職員

2000円

遠藤 二郎 中11 島野 和男 中11

10000円

渡辺 善吉 (青木)

10000円

石川 進 中12 倉持嘉一郎 中12

10000円

飯田 高二 中12 飯田 高二 中12

10000円

奈良 勝次 中13 奈良 忠男 中13

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

2000円

遠藤 二郎 中11 島野 和男 中11

10000円

渡辺 善吉 (青木)

10000円

石川 進 中12 倉持嘉一郎 中12

10000円

飯田 高二 中12 飯田 高二 中12

10000円

奈良 勝次 中13 奈良 忠男 中13

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

2000円

遠藤 二郎 中11 島野 和男 中11

10000円

渡辺 善吉 (青木)

10000円

石川 進 中12 倉持嘉一郎 中12

10000円

飯田 高二 中12 飯田 高二 中12

10000円

奈良 勝次 中13 奈良 忠男 中13

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

10000円

飯塚 久男 中14 飯塚 浩治 中14

Table with 2 columns: Name (e.g., 湯本 弘子), Birthplace (e.g., 倉田), and Height (e.g., 高38).

Table with 2 columns: Name (e.g., 関 真澄), Birthplace (e.g., 真澄), and Height (e.g., 高42).

Table with 2 columns: Name (e.g., 猪瀬 正紀), Birthplace (e.g., 正紀), and Height (e.g., 高48).

Table with 2 columns: Name (e.g., 金久保真理), Birthplace (e.g., 真理), and Height (e.g., 高56).

Table with 2 columns: Name (e.g., 石塚 直人), Birthplace (e.g., 直人), and Height (e.g., 高65).

Table with 2 columns: Name (e.g., 岩崎 寛奈), Birthplace (e.g., 寛奈), and Height (e.g., 高65).

編集後記

本会報も3号目となり、これまでのよかつた点や反省点を踏まえて、さらに充実した内容になったものと感じています。お寄せいただいた原稿からは、在学当時の自分の思い出を重ね合わせてみたり、仕事や地域で活躍する同窓生、そして現役生の活躍する姿から刺激をいただいたりと、たくさんの想いが伝わってまいります。次号の発行を心待ちにしていただけのような会報を目指して今後も頑張りますので、変わらぬ温かいご支援をよろしく願います。編集委員 木村 泰之

Table with 2 columns: Name (e.g., 倉持 瞳), Birthplace (e.g., 瞳), and Height (e.g., 高67).